

## JICA & APARI フィリピンプロジェクト 活動報告

### 第2回派遣(2010/1/17~23)

このたびアパリストッフを含め3名のプロジェクトメンバーが、フィリピンに行ってきました。今回渡航したメンバーは、三浦、山本、そしてアパリ・ソーシャルワーカーの古藤です。さらに、このプロジェクトのために英語/タガログ語のレクチャーをしてくださっているフィリピン人のマリデルさんも、後半に現地で合流することとなり、通訳などのサポートをしていただきました。

2009年の9月、フィリピンからファミリー・ウエルネス・センター(FWC)代表のリッチーさんをはじめ、コアメンバーのガブリエルさん、ジュンさん、デビッドさんの4人が来日し、東京・群馬・山梨に滞在しながら研修や打合せを行いました。その後、現地ではリッチーさんが中心となり、貧困層を対象とする薬物依存回復ミーティングの開始に向けて、会場の決定、関係機関とのやりとりなどが進められてきました。昨年11月には、マニラの多くの地域が集中豪雨による大規模な洪水に見舞われ、ミーティング実施候補地のマリキナ市とタタロンも大きな被害を受けました。そのため、1月の訪問を延期することも協議してきましたが、被災地域はみるみると復興し、現地からもプロジェクト進行に支障がないとの報告を受け、今回の訪問となりました。

現地での具体的なスケジュールは別表のとおりですが、今回の訪問では、プロジェクト実施のための実務的な話し合いがおこなわれ、貧困層を対象にしたミーティングがいよいよ開始できる段階になりました。マリキナ市では、公立のリハビリ施設内でプログラムを行うため、保健行政機関とリハビリ施設それぞれのディレクター等を交えて会合を開き、市側からも厚い歓迎を受けることができました。なお、これまで暫定的に“アパリミーティング”と呼んでいたミーティングの呼称は、“アディクション・リカバリー・ミーティング(ARM)”に正式決定いたしました。

現地のJICA事務所、リッチーさんをはじめFWCのスタッフ、現地コアメンバー、タタロンのアディクタス・フィリピンのイブリンさんをはじめ、このプロジェクトに関わっていただいたり、後方支援していただいている多くの方に深く感謝いたします。



JICAフィリピン事務所を訪問  
左から古藤、リッチーさん、山本、三浦



マカティにあるFWCの新事務所にてプロジェクトの打合せ



マリキナ市の保健センターで会合を終えて

#### < 第2回渡航スケジュール >

1/18(月): JICAフィリピン事務所訪問、ファミリー・ウエルネス・センターにて打合せ  
 1/19(火): ファミリー・ウエルネス・センターにてカウンセリングのレクチャー  
 1/20(水): ファミリー・ウエルネス・センターにて打合せ  
 1/21(木): マリキナ市保健センターにて会合を開く  
 マリキナ市ドラッグ・リハビリ施設見学、タタロン、アディクタス・フィリピンにて打合せ  
 1/22(金): タタロン、アディクタス・フィリピンにて打合せ&ミーティング、  
 リッチー氏自宅にて最終打合せ



## フィリピン訪問を終えて・・・マサル（山本）



マリキナ市の保健センターの会合でプロジェクトの説明をする古藤



滞在中に山本の誕生日を祝ってもらいました

JICAのプロジェクトに参加させていただいて、今回で二度目のフィリピン訪問になります。前回の視察で予想以上に話が進み、おおよそ、どこで貧困層の薬物依存症の人たちに対してミーティングを行っていくかが決まった中、今回の渡航はいつどのように行うか具体的にしていけるのが目的で、1月17日から23日までの1週間の滞在となりました。

まずはJICAをFWCのリッチー氏らと共に訪問し、その後何日かFWCにて、コアメンバーを含めて入念な打ち合わせをしました。その中で、多少考え方の行き違いや、予定の変更等もありましたが、最終的には良い方向に落ち着き、20日にマリキナ市の保健センターにて、同市の薬物依存リハビリ施設の職員を交えて会合を開きました。その後これからミーティングを行う予定の場所である施設（マリキナ・リハビリテーションセンター）を見学に行きましたが、ま、一口に薬物依存のリハビリ施設と言っても、実際は殆んど刑務所に近く、鉄格子の中で生活をしており、その中で行われているプログラムは聖書を読むだけだと聞いて、ミーティングを行っていく重要性を強く実感しました。

今後はこの施設内で毎月1回、中の入所者と、既に外で生活をしているアフター・ケア・プログラムの人達を対象に定期的にミーティングを行う事になります。（2月半ば現在、既に第1回のミーティングが行われ、入所者3名、アフター・ケア2名が参加したそうです！）

その後場所を移し、タタロンという、もっとも貧困層が多い居住区にて打ち合わせをし、今現在そこで薬物の問題を抱えている人達に向けて、自分の体験談を含めたメッセージを伝える機会がありました。同行してくれたマリデルさんの通訳のお陰もあり、とても熱心に聞いてくれて、私たち自身も感激しました。ここでもこのコミュニティでボランティアをしてくれている人達の協力と理解が得られ、近いうちに定期的にミーティングが行われるようになると思われます。

いずれにせよ、一つが実際に稼働し始めた事は大きく、今後いかに継続させて行くかが重要であり、それらがどのように効果が出てくるのかはまだ分かりませんが、一人でも多くの仲間たちが回復の道へ歩んでくれることを願っています。

マリキナ市の  
リハビリ施設にて



この施設でARMが行われていく予定です



カウンセラーやボランティアスタッフとともに



施設の中は鉄格子です

### 【事業概要】

**事業名:** マニラ市貧困層における薬物依存症者に対する回復支援推進事業

**事業の背景と必要性:** フィリピンには約200万人の薬物乱用者がいると言われる。その多くは覚せい剤乱用者である。覚せい剤はフィリピンでは“shabu”と呼ばれているが、日本の覚せい剤の隠語である「シャブ」に由来するものである。覚せい剤は、1gあたり約1500ペソであり、100ペソ程度の小さな包装単位でも入手が可能なため、貧困層においても使用が拡大する原因の一つとなっている。日本人が発明した覚せい剤の問題に苦しむ薬物依存症者の回復支援をすることは、薬物乱用の歴史的背景からも妥当性の高いことである。マニラでは回復プログラムにつながる薬物依存症者は富裕層のみであり、貧困層にまでいき渡っていない。日本での回復プログラムの核であるミーティングをマニラの貧困層で開くことにより、誰にでも回復のチャンスがあるということを広く認知してもらう。アパリミーティングが地域で開催されることで貧困層の中でも薬物依存からの回復が可能となる。

**事業の目的:** マニラの貧困層に薬物依存症者のためのアパリミーティングが開催される環境が整う

**対象地域:** フィリピン マニラ市の貧困層地域

**受益者:** 依存症者本人とその家族、リハビリ施設職員、精神病院職員等

**活動及び成果:**

1. 本事業を実施する上で必要な現地情報を収集し、中心となるコアメンバー5名を選出する。
2. コアメンバーの本邦研修により、アパリミーティング開催に必要なノウハウやファシリテートスキルを学ぶ。
3. 現地で模擬ミーティング（アパリミーティング）を開催し、地域で薬物依存症についての理解とアパリミーティングに対する理解を深める。
4. ミーティングの際に使用するアパリミーティング・ハンドブックを作成する。

**実施期間:** 2009年5月～2012年3月（約3年）

**カウンターパート:** ファミリー・ウェルネス・センター = FWC（マニラ）

**協力機関:** アディクタス・フィリピン（タタロン）

タタロン地区にて・・・



アディクタス・フィリピン この施設でもARMが行われる予定です



日本のメンバーの体験談を熱心に聞き入る薬物使用経験者